

令和元年度 基本施策評価シート

作成日 令和元年6月21日

基本施策	E3 犯罪のない地域づくりを進めます		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	犯罪被害にあうことなく、安全・安心に暮らしている。	
基本施策主管課名	自治振興課	所属長名	中野 宏美
関係課名	こどもみらい課		

基本施策の評価

Ac 目標を達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標が100%以上の目標達成率となったことから、「A」とする。
- ・個別施策の成果指標5つのうち、100%以上の目標達成率が1つと半数以下で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」とする。

【評価判断に至った成果・効果及び問題点・その要因】

- (1) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会、暴力追放パレード及び防犯パネル展、市が行う地域防犯講座など、関係団体と連携した全市民的な暴力追放運動や防犯啓発活動により、防犯意識の向上が図られた。
- (2) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会の実施方法が固定化している。
- (3) 子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールが6,856回、情報交換会が731回実施され、地域における見守り活動が実践された。
- (4) 少年補導委員の活動回数に地域でばらつきがある。
- (5) 市内各地区の防犯協会では、パトロールや防犯啓発活動等が行われ、犯罪の未然防止につながっている。
- (6) 青色回転灯防犯パトロール活動団体については、防犯意識の高まりにより新たに組織された団体があったものの、解散する団体もあった。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2
犯罪発生件数(刑法犯 認知件数)[暦年]	1,874件 (26年)	↓ 目標値	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
		実績値	1,554	1,431	1,251		
		達成率	102.9%	104.6%	110.6%		

今後の取組方針

- (1) 防犯啓発活動の推進を図るため、暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発及び青色回転灯防犯パトロールなどの地域における防犯活動の促進のための取組みを行い、市民の自主防犯意識を高め、また、警察や防犯協会などの諸団体との連携・情報交換を促進する。
- (2) 暴力団排除条例(平成25年4月1日施行)に基づき、暴力団排除活動を推進し、安全で安心して暮らせる地域社会づくりを推進する。
- (3) 地域防犯活動の推進を図るため、子どもを守るネットワークによる見守り活動及び少年補導委員による補導活動の充実を図るとともに、防犯パトロールなどの地域の自主的な防犯活動への支援を行う。また、これらの活動について市民へ周知し理解を深め、活動への参加促進に努める。
- (4) 特殊詐欺等の新しい犯罪に対しては、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Ac」については、所管評価のとおり。
 - 個別施策E3-1「①子ども安全情報の収集および発信」、E3-2「①子どもの見守り活動の推進」の「今後の取組方針」について、第五次総合計画に向け、子どもだけでなく、高齢者の見守りも視野に入れた取組が必要ではないか。地域コミュニティの仕組みづくりとの連携の仕方を検討していくなどの記載はあった方がよいのではないか。
 - 成果指標の「犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)」について、長崎市が多いのか少ないのかが分からないので、長崎県が全国で下から2番目の発生件数であることは記載した方がよいのではないか。
- 【振返り】
- 成果指標について、犯罪発生件数だけでなく、より細かい指標を持つことが必要。また、第五次総合計画に向けて、市が施策を進めることで成果を測れるような指標の検討が必要である。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-1 防犯啓発活動を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民や事業者が	「自分の安全は、自分で守る」という自主防犯意識を高めている。	
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	中野 宏美

平成30年度 of 取組概要

- ①防犯意識の啓発
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会及び暴力追放パレードを開催し、市民約1,000人が参加した。
 - ・防犯パネル展を、市役所本館ロビーのほか新たに市内6か所の地域センターで実施した。
 - ・平成29年度に行った、小中学生を対象とした暴力追放啓発書写コンクールにおける優秀作品の展示を、4月の暴力追放強調月間にあわせ、長崎市立図書館で行った。
 - ・地域防犯講座を10回開催し、特殊詐欺等の被害の未然防止について周知啓発を行った。
 - ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議や自主防犯団体等の活動を紹介する広報誌を作成し、周知を図った。
 - ・長崎市のホームページ上に、防犯に係るページを開設し、更なる広報啓発の場を創出するとともに、青色回転灯防犯パトロール活動の周知啓発を行った。
 - ・長崎市防犯協会連合会において、長崎市の防犯対策に長年協力された個人・団体に対し、表彰を行った(7名、1団体)。
- ②防犯関係団体との連携強化
- ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議幹事会を開催し、市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等の事業者団体並びに警察との連携を図り、情報交換を行った。
 - ・各地区で行われる防犯関係のイベントや会議へ積極的に参加し連携強化を図るとともに、年末には長崎県警察との共催で、防犯と交通安全を訴えるパレードを開催し、防犯意識の高揚を図った。
- ③子ども安全情報の収集及び発信
- ・こどもみらい課で収集した情報をもとに、こどもみらい課と学校教育課(不審者情報等)又は健康教育課(サル等有害鳥獣情報等)において情報の内容について協議・分析し、関係課と連携して、関係機関・団体へ速やかに情報発信を行うように努めた。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	7,484人 (26年度)	↑ 目標値	7,559.0	7,711	7,788	7,866	7,945
		↑ 実績値	6,646	6,372	1,000		
		↑ 達成率	87.9%	82.6%	12.8%		
【補助代替指数】 地域防犯講座への参加者数※1	322人 (29年度)	↑ 目標値			322	322	322
		↑ 実績値			275		
		↑ 達成率			85.4%		

※1 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数については、啓発事業の見直しを行い、暴力追放啓発書写コンクール事業を廃止した結果、参加者数が大きく減少したため、比較検討ができない。よって、補助代替指標として、地域防犯講座への参加者数を記載した。参加者数の維持を図っていくという考えから、基準値の322人を目標値として設定している。

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会及び暴力追放パレードは、市民会議の116団体が参加・協力し、開催することで、長崎を暴力のない安全で安心なまちにしたいという想いやいのちの大切さを発信することができた。 ・防犯パネル展については、4月の暴力追放強調月間のほか、10月の全国地域安全運動期間中にも開催したほか、地域センターで巡回展を開催し、より多くの市民に啓発を図る機会を創出した。 	<p>様々な取組みにより、市民や事業者が啓発活動に触れる機会が増えたことで、自主防犯意識の向上につながった。</p>
<p>②防犯関係団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議幹事会の開催のほか、各地区で行われる防犯関係のイベントや会議などに参加するとともに、年末には長崎県警察との共催で、防犯と交通安全を訴えるパレードを開催し、防犯関係団体との情報共有や意識の醸成が図られた。 	<p>防犯関係団体との連携が強化され、情報共有や機運醸成が図られたことにより、自主防犯意識の向上につながった。</p>
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報59件、サル等有害鳥獣情報13件を情報発信し、注意喚起を行った。 	<p>防犯・安全意識の高揚に寄与できた。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会の実施方法が固定化している。 	<p>継続的な運動として、さらに広げていく必要があるが、より多くの人に広げていくための周知や取組みが十分でない。</p>
<p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報について、情報提供を受けてから情報を発信するまで、タイムラグが発生する。 	<p>不審者情報については学校からの情報提供が主であるが、学校による保護者等の情報発信への同意や関係課との協議に時間を要する。</p>

今後の取組方針

<p>①防犯意識の啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会等の暴力追放運動、最新の犯罪情報の提供等による防犯意識の啓発、防犯パネル展の開催などにより、防犯啓発活動の推進を図り、市民の自主防犯意識を高める。 ・暴力追放運動については、継続的な取り組みとするとともに、さらに、運動を広げていくための効果的な取り組みを検討する。また、若い世代の参加を促すために、周知・広報の様々な方法を検討する。 ・特殊詐欺等新しい犯罪に対しては、警察と連携した防犯講座やSNS等を活用し、被害の未然防止のため周知啓発等の取組みに努める。 <p>②防犯関係団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会議の構成団体である地域団体や防犯団体等との連携、情報交換を促進する。 <p>③子ども安全情報の収集及び発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全確保の重要性から、小・中学校との連携を深め、スムーズな情報収集と適切な情報発信に努める。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	(事業名) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議事業 費負担金 【自治振興課】 (事業目的) 暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による活動への支援を行う。 (事業概要) ①市民集会の開催 ②広報啓発活動 ③構成団体相互の情報交換と連携強化	実施年度	継続	
		成果指標	暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数	
		目標値	7,711 人	7,788 人
		実績値	6,372 人	1,000 人
		達成率	82.6 %	12.8 %
		決算(見込)額	802,846 円	413,864 円
		成果指標及び目標値の説明	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。 基準値を7,484人(平成26年度)とし、毎年1%増とする目標値を設定しており、平成29年度は7,711人としている。	防犯意識の啓発を目的に行っている暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議の暴力追放啓発活動への参加者数を成果指標とした。 基準値を7,484人(平成26年度)とし、毎年1%増とする目標値を設定しており、平成30年度は7,788人としている。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) 平成29年4月22日に市民集会及び暴力追放パレードを実施した。 平成29年10月から平成30年3月にかけて、暴力追放啓発書写コンクールを実施した。 ・市民集会参加者数：約1,000人 ・書写コンクール応募者数：5,372人 (成果・課題等) 啓発活動等による防犯意識の向上が図られた。今後も、啓発活動を継続して行うとともに、これらの活動への市民の参加促進に努める必要がある。	(取組実績) 平成30年4月15日に市民集会及び暴力追放パレードを実施した。 ・市民集会参加者数：約1,000人 (成果・課題等) 啓発事業の見直しを行い、暴力追放啓発書写コンクール事業を廃止した結果、実績値は大きく減少したが、市民集会には、引き続き多くの参加があったことから、防犯意識の向上が図られたと思料する。 今後も、活動を行うとともに、継続することの重要性を発信し、これらの活動への市民の参加促進に努める必要がある。

令和元年度 個別施策評価シート

個別施策	E3-2 地域防犯活動を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	地域が	「自分たちのまちは、自分たちで守る」という自主防犯活動を行っている。	
個別施策主管課名	自治振興課	所属長名	中野 宏美

平成30年度 of 取組概要

- ①子どもの見守り活動の推進
 ・子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールが6,856回、情報交換会が731回実施され、地域における見守り活動が実践された。
- ②青少年の非行防止活動の推進
 ・264名の少年補導委員(年間延4,436名)が、1,451回の補導活動を行い、3,983名の少年に「愛の一声」をかけ、子どもの非行防止に取り組んだ。
 ・非行や犯罪につながる可能性のあるSNS等への対応及び改正風営法の周知のため、少年補導委員に対し状況報告及び注意喚起を実施した。
- ③自主防犯活動への支援
 ・犯罪の抑止に効果が高い自主防犯活動の一つである青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会等への財政的支援を行うことにより、防犯活動の促進に努めた。
 ・青色回転灯防犯パトロール活動団体等の自主防犯団体との連携強化に努め、団体の概要や活動状況等の情報共有を図るとともに、それらの情報を広報誌やホームページで発信した。
 ・青色回転灯防犯パトロール活動を推進するためのチラシを作成し、自治会へ発送した。
- ④暴力団等排除の推進
 ・市が実施する補助事業などの情報を警察等の関係団体と共有し、市の事業への暴力団等の排除に努めた。

成 果 指 標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指 標 名	基準値 (時期)	区 分	H28	H29	H30	R元	R2
子どもを守るネットワークパトロール実施回数	6,099回 (23～26年 度平均)	↑ 目標値	6,100	6,100	6,100	6,100	6,100
		実績値	5,974	6,055	6,856		
		達成率	97.9%	99.3%	112.4%		
少年補導委員の活動人数	4,979人 (26年度)	↑ 目標値	5,100	5,400	5,700	6,000	6,300
		実績値	4,379	4,343	4,436		
		達成率	85.9%	80.4%	77.8%		
青色回転灯防犯パトロール活動団体数	21団体 (26年度)	↑ 目標値	22	22	23	23	24
		実績値	21	20	20		
		達成率	95.5%	90.9%	87.0%		

評価(成果と効果)

取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを守るネットワークの活動として、全68小学校区において年間を通じ、パトロールが6,856回、情報交換会が731回実施され、地域における見守り活動が実践された。 	<p>子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりの実現に寄与した。</p>
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・264名の少年補導委員(年間延4,436名)が、1,451回の補導活動を行い、3,983名の少年に「愛の一声」をかけ、子どもの非行防止に取り組んだ。 ・非行や犯罪につながる可能性のあるSNS等への対応及び改正風営法の周知のため、少年補導委員に対し状況報告及び注意喚起を実施した。 	<p>少年の健全育成と非行防止が図られた。</p>
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌やホームページにより、青色回転灯防犯パトロール活動の内容やその効果を発信したことで、地域防犯活動の周知が図られた。 ・各地区の防犯協会が行うパトロールや防犯啓発活動等を支援し、犯罪の未然防止につながった。 	<p>自主防犯活動が地域に浸透し、犯罪の未然防止につながったことで、地域住民の自主防犯活動が継続的なものとなった。</p>
<p>④暴力団等排除の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が実施する補助事業などについて、県警に暴力団等照会を行い、暴力団等でないことの確認を行った。 	<p>暴力団等排除の推進によって、市が実施する補助事業などへの暴力団等の介入を防いだ。</p>

評価(問題点とその要因)

5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
<p>①子どもの見守り活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を行う人の固定化が顕著となっている。 	<p>地域の人の繋がりが希薄になってきている。</p>
<p>②青少年の非行防止活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校業務のため学校補導委員と一般補導委員との間で活動時間の調整が困難である。 	<p>学校補導委員は教職員であり、授業準備、部活指導、保護者対応等のため、一般補導委員と同じ時間に活動を行うことが難しい。</p>
<p>③自主防犯活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色回転灯防犯パトロール活動団体については、防犯意識の高まりにより新たに組織された団体があったものの、解散する団体もあった。 	<p>高齢化や後継者不足など、パトロール活動の要員確保が難しい。</p>

今後の取組方針

①子どもの見守り活動の推進

・引き続き子どもを守るネットワーク活動への支援を行うことで、家庭や地域社会全体で安全・安心なまちをつくるという意識を高め、更に活動を活性化する。

・子どもが事故や犯罪に巻き込まれる原因となるものを未然に防ぐため、機会をとらえて子どもを守るネットワークに対し情報提供・注意喚起を行う。

②青少年の非行防止活動の推進

・少年補導委員の資質向上を図り、定期補導の充実につなげるため、長崎市少年補導委員協議会の研修会の内容を充実させるための連携を推進するとともに、参加者の増加に努める。

・中学校の学校補導委員の活動を活性化するために、中学校補導委員が活動しづらい現状を分析し、活動可能な体制を検討していく。

・問題行動や初発型非行の防止に取り組むため、少年センターにおいて関係機関及び関係団体・店舗等と連携し、情報収集を行うと共に少年補導委員への情報提供や注意喚起、少年補導のポイント等を周知する取組みを推進する。

③自主防犯活動への支援

・地域の防犯力の向上を図るため、青色回転灯防犯パトロール活動団体や市内各地区の防犯協会に対する連携・支援を継続することにより、地域防犯活動の継続・強化など犯罪に強いまちづくりへの取組みを推進する。

・新規隊員加入及び新規団体の発足を促すために、引き続き、ホームページ等による青色回転灯防犯パトロール活動の効果や実施状況についての広報を行う。

④暴力団排除の推進

・暴力団排除条例(平成25年4月1日施行)に基づき、暴力団排除活動を推進し、安全で安心して暮らせる地域社会づくりを推進する。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
1	<p>(事業名) 子どもを守るネットワーク推進費</p> <p>【こどもみらい課】</p> <p>(事業目的) 地域内の団体・組織・個人などが連携し、子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりを実現する。</p> <p>(事業概要) 子どもを守るネットワーク活動に対する助成を行う。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	子どもを守るネットワークパトロール実施回数	
		目標値	6,100 回	6,100 回
		実績値	6,055 回	6,856 回
		達成率	99.3 %	112.4 %
		決算(見込)額	6,488,235 円	6,388,373 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。</p> <p>平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、平成29年度は6,100回を目標値とした。</p>	<p>実施回数の維持により、子どもの安全を地域で見守る活動が定着していると考えられるため、子どもを守るネットワークパトロール実施回数を成果指標とした。</p> <p>平成23年度から平成26年度の平均値6,099回を維持することを目標値としており、平成30年度は6,100回を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>市内69小学校区の子どもを守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>パトロールが6,055回、情報交換会が706回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。</p> <p>パトロールの実施回数は、目標値に達しておらず、参加人数については活動を行う人の固定化があり減少傾向である。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>市内68小学校区の子どもを守るネットワークに対し、巡回・交流活動費を助成した。また、ネットワーク活動の共通理解を図るため、代表者会を1回開催した。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>パトロールが6,856回、情報交換会が731回実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。</p> <p>パトロールの実施回数は、目標値を達成したが、活動を行う人の固定化が進んでいる。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
2	<p>(事業名) 少年センター相談・補導活動費</p> <p>【こどもみらい課少年センター】</p> <p>(事業目的) 少年補導委員による街頭補導や相談活動を行い、少年の健全育成と非行防止を図る。</p> <p>(事業概要) 補導業務の充実、相談業務の充実、環境浄化の推進、情報の収集、提供を行い、関係機関との連携に努める。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	少年補導委員の活動延人数	
		目標値	5,400 人	5,700 人
		実績値	4,343 人	4,436 人
		達成率	80.4 %	77.8 %
		決算(見込)額	14,334,291 円	14,291,196 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。</p> <p>平成32年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため平成29年度は5,400人を目標値とした。</p>	<p>少年補導委員の活動人数が増加することで、青少年の非行防止と健全育成が図られていると考えられるため、声かけ活動を行った少年補導委員の延べ人数を成果指標とした。</p> <p>平成32年度に全補導委員の活動回数を月2回とすることを目標値としており、段階的に実施するため平成30年度は5,700人を目標値とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>延4,343人の補導委員が活動し、少年3,776人に声掛けを行った。新任補導委員に対する事前研修会に16人(改選年度でないため)、夏季・冬季研修会に181人の参加があった。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。軽微なものは報告しないとしたことで、声かけ件数が減少したが、実際には充実した活動が行われている。学校補導委員については、少年補導委員との連携・協働を推進し、活動の活性化を図っている。</p>	<p>(取組実績)</p> <p>延4,436人の補導委員が活動し、少年3,983人に声掛けを行った。新任補導委員に対する事前研修会に37人、夏季・冬季研修会に183人の参加があった。</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与することができた。学校補導委員については、少年補導委員との連携・協働を推進し、活動の活性化を図っている。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	区分	平成29年度	平成30年度
3	<p>(事業名) 青色回転灯防犯パトロール活動費補助金</p> <p>【自治振興課】</p> <p>(事業目的) 青色回転灯防犯パトロール活動団体への支援を行う。</p> <p>(事業概要) 地域の防犯ボランティア団体が行う青色回転灯を装着した車による防犯パトロール活動に係る経費の一部を支援する。</p>	実施年度	継続	
		成果指標	青色回転灯防犯パトロール活動団体数	
		目標値	22 団体	23 団体
		実績値	20 団体	20 団体
		達成率	90.9 %	87.0 %
		決算(見込)額	606,250 円	558,500 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、平成29年度は22団体とした。</p>	<p>地域の安全を守るために活動している青色回転灯防犯パトロール活動団体数を成果指標とした。基準値を21団体(平成26年度)とし、2年度ごとに1団体増とする目標値を設定しており、平成30年度は23団体とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:14団体 活動延べ日数:2,171日 活動延べ台数:2,425台</p> <p>(成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。現隊員の高齢化等による団体活動継続の問題も顕在化しており、今後、新たな活動団体を増やしていくこととあわせて取り組んでいく必要がある。</p>	<p>(取組実績) 活動団体数:20団体 補助金交付団体:14団体 活動延べ日数:2,010日 活動延べ台数:2,234台</p> <p>(成果・課題等) 青色回転灯防犯パトロール活動により、地域の安全・安心まちづくりの推進が図られた。現隊員の高齢化等による団体活動継続の問題も顕在化しており、今後、新たな活動団体を増やしていくこととあわせて取り組んでいく必要がある。</p>

基本施策の振返りシート

基本施策	E3 犯罪のない地域づくりを進めます
------	--------------------

主管課：自治振興課

後期基本計画における5年後にめざす姿	
対 象	意 図
市民が	犯罪被害にあうことなく、安全・安心に暮らしている。

個別施策	後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み
E3-1	●防犯関係団体との連携強化及び自主防犯活動の活発化	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会及び暴力追放パレードの開催 ○地域防犯講座の開催 ○関係団体主催の防犯関係のイベント及び会議参加による情報共有
E3-1	●地域における防犯活動への多様な年代の住民参加	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議や自主防犯団体等の活動を紹介する広報誌の作成 ○小中学生を対象とした暴力追放啓発書写コンクールの実施 ○防犯パネル展の開催
E3-1	●関係施設・組織への情報提供と連携強化	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○警察から提供される不審者情報等の青色回転灯防犯パトロール活動団体への情報提供 ○子ども安全情報の収集・分析及び関係機関・団体への提供
E3-2	●子どもの見守り活動の推進	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における子どもを守るネットワーク活動に対する助成
E3-2	●青少年の非行防止活動の推進	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○補導業務、相談業務、環境浄化業務、情報の収集・分析・提供の実施
E3-2	●自主防犯活動の推進	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○青色回転灯防犯パトロール活動団体や防犯協会等の防犯活動団体への財政的支援
E3-2	●警察等と連携した暴力団の排除	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ○市の事業への暴力団等の排除に向けた警察への照会



成果と効果	
取組みによる成果	5年後にめざす姿に対する効果
暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議による市民集会、暴力追放パレード及び防犯パネル展、市が行う地域防犯講座など、関係団体と連携した全市民的な暴力追放運動や防犯啓発活動は、市民や事業者が防犯啓発活動に触れる機会の増加につながった。	様々な取組みにより、市民や事業者が啓発活動に触れる機会が増えたことで、自主防犯意識の向上につながった。
・青色回転灯防犯パトロール活動団体への情報提供により、情報共有が図られた。 ・不審者情報やサル等有害鳥獣情報を発信したことにより、注意喚起につながった。	・情報共有が図られたことによって、パトロール活動の充実につながった。 ・防犯意識の高揚に寄与できた。
パトロール、情報交換会が実施され、地域における子どもの見守り活動ができた。	地域内の団体・組織・個人などが連携し、子どもたちが安全に、かつ、安心して過ごすことができる住みよいまちづくりが実現できた。
年間を通し少年補導委員が愛の声かけを行い、虞犯・不良行為の早期発見、少年の非行化の防止に寄与した。	少年の健全育成と非行防止が図れた。
防犯活動団体への財政的支援により、各地区において防犯活動が行われた。	地域防犯活動の充実を図ることで、地域の防犯意識の向上につながった。

問題点とその要因	
5年後にめざす姿に対する問題点	問題点の要因
暴力追放「いのちを守る」長崎市民集会の実施方法が固定化している。	継続的な運動として、さらに広げていく必要があるが、より多くの人に広げていくための周知や取組みが十分でない。
活動を行う人の固定化が顕著となっている。	地域の人との繋がりが希薄になってきている。
学校業務のため学校補導委員と一般補導委員との間で活動時間の調整が困難である。	学校補導委員は教職員であり、授業準備、部活指導、保護者対応等のため、一般補導委員と同じ時間に活動を行うことが難しい。
青色回転灯防犯パトロール活動団体については、防犯意識の高まりにより新たに組織された団体があったものの、解散する団体もあった。	高齢化や後継者不足など、パトロール活動の要員確保が難しい。

市民の評価

満足度・期待度	評価	満足度	0.66	6位 / 43項目中
	維持	期待度	1.40	2位 / 43項目中

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

【前期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H23	H24	H25	H26	H27
犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)[暦年]	3,166件 (21年)	↓ 目標値	2,878	2,833	2,788	2,744	2,700
		実績値	2,630	2,588	2,314	1,874	1,609
		達成率	108.6%	108.6%	117.0%	131.7%	140.4%

【後期計画】

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	H31	H32
犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)[暦年]	1,874件 (26年)	↓ 目標値	1,600	1,500	1,400	1,300	1,200
		実績値	1,554	1,431	1,251.0		
		達成率	102.9%	104.6%	110.6%		

【後期計画の成果指標の検証】

成果指標	成果指標の検証
犯罪発生件数(刑法犯罪認知件数)[暦年]	施策の目的である、市民が犯罪被害にあわないための地域づくりをすすめることで、本指標の減少へとつながることから、成果指標としては適している。

※成果指標の適否の判断基準を参考に成果指標の検証を記載

成果指標の適否の判断基準

- (1) 施策全体の成果を表したものであったか。
- (2) 市が施策を進めることで成果につながる指標であったか。
- (3) 時代の変化に伴い、さらに適した他の指標がなかったか。
- (4) 目標値の設定が適切であったか。

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況				番号		
				完結	処理中	その他	番号			
				対応済	対応不可	対応中	対応予定	検討中	その他	
基本施策E3 犯罪のない地域 づくりを進めま す	自治振興課	成果指標	○ 成果指標「啓発活動への参加者数」となっているが、世の中の治安が悪ければ、暴力追放パレードなどへの参加者数は増えるのではないかと思ふ。安全・安心に暮らしている社会であれば、安全だから逆にパレードの参加者数は減少するのではないかと考えるので、参加者数を増やすことを指標に設定すると逆になるのではないか。	自治振興課				●	暴力追放「いのちを守る」長崎市民会議が行う啓発活動は、暴力追放への市民意識の醸成を図ることが目的であり、「啓発活動への参加者数」は暴力追放への市民意識の機運・情勢を作り上げることの指数としている。ただし、代替指標も設定し、評価することとした。	1
			○ 成果指標が「犯罪の発生件数」となっているが、自分たちがパトロールをしていると、犯罪まで行かない状態、あるいは気になる状態があるのではないかと思う。自分たちが守っているという観点からみると、そういう情報が必要ではないか。	自治振興課 子どもみらい課					●	県警からの不審者情報を青色回転灯パトロール隊やSNS利用者へ発信し、情報共有を図っている。 子どもを脅かす情報を関係機関が連携しながら収集・分析し、「子ども安全注意報」として学校等に発信している。
	評価シート	○ 自分の安全は自分で守るといふ個人の取組みについて、実際は行われているかもしれないが、個人の取組みの記載が少なく感じる。	自治振興課				●	個人の取組の1つとして、地域で行っている防犯講座への参加が考えられることから、防犯講座の実施について取組概要に記載している。	3	
	防犯	○ E3の施策は犯罪被害の防止を想定しているの、有害鳥獣情報については、防犯ではなく防災になるのではないか。	子どもみらい課				●	子ども安全注意報は、不審者等子どもの安全を脅かす情報を収集し、関係各課と協議のうえ、学校等に情報発信している。有害鳥獣についても、子どもに被害を及ぼす恐れがあるため、同様の対応をしている。	4	
		○ まちづくり的というと、まちがどんどん危険な方向に向かっていく。昔は店舗や住宅であったところがマンションや駐車場になり、逃げ込める場所が無くなっている状況である。これ以上道路面に人がいなくなる状況をカバーするようなシステムができないか検討をお願いしたい。	自治振興課				●	安全で安心なまちづくりは、市民一人ひとりが「自分たちのまちは自分たちで守る」との意識をたかめることが大切であり、今後も地域の防犯意識の高揚、地域防犯活動の維持・拡大、防犯に配慮した効果的な取組みを継続する。	5	
		○ 防犯カメラの設置について、防犯カメラを設置している場所では犯罪は減少しているかもしれないが、全体として減少しているのかについて検討が必要ではないか。また、設置場所については、プライバシーの問題があるので検討を要する。	自治振興課				●	防犯カメラの設置については、情報収集に努め、設置効果も含め、十分調査研究したうえで対応を図っていくこととしたい。	6	

長崎市総合計画審議会からの意見等に係る対応状況表(平成30年度開催分)【各基本施策】

施策名	基本施策 主管課	指摘・意見・提案	回答課	処理状況					令和元年度における対応(予定) ※R元当初予算対応含む	番号	
				完結	処理中	その他	対応済	対応不可			対応中
		その他									
		○ 小、中学校、高校に対して、どのように防犯の意識を高めていくかということは大事だと考える。保護司会など各団体が標語や作文、弁論大会など様々な活動を行っているの、それぞれの団体がどういった活動をしているのかお互い関心を持ちながら連携できればいいのではないか。	自治振興課				●			防犯に関わる様々な団体との連携強化に努め、各団体が行う活動について情報共有を図るとともに、それらを集約し、ホームページやリーフレット等で広報し周知を図ることで、防犯意識の向上につなげていくこととしたい。	7
		○ 第四次総合計画に記載されているSNSの定義について、記載内容が正しいのか疑問に思う。	こどもみらい課					●		記載の必要性を含め、内容について検討している。	8